

地域団体商標を取得し、
歴史ある地域ブランドを
守り抜いていく

日本が世界に誇る伝統工芸のひとつである「九谷焼」。1655年、江戸初期に大聖寺藩(加賀藩の分家)の藩主・前田利治が江沼郡九谷村、現在の石川県加賀市山中温泉九谷町で焼かせたのが始まりと言われています。近代においては、「九谷五彩」と呼ばれる、青(緑)・黄・赤・紫・紺青の濃厚で華やかな色彩の作風が「ジャパントニ」の名で欧米に深く浸透。地域団体商標を取得することで模倣品対策を行い、歴史ある地域ブランドを守っています。

九谷焼

地域団体商標
模倣品対策事例

02



市場に出回る模倣品…、
ブランドと作り手を
守るため商標取得へ

「九谷焼」と言えば鮮やかな色彩で見る者を魅了する、日本を代表する磁器。国内外で人気が高い一方で、それゆえに市場では常に模倣品が出回り、さらに中国においては無関係の第三者が「九谷焼」の商標登録をしていたため「九谷焼」の名で販売できな

いという被害も受けていました。こうした状況を危惧した石川県九谷陶磁器商工業協同組合連合会は、消費者に本物の「九谷焼」を安心して買ってもらえるように、そして正しく技術を学び作品を焼き続けている作り手を守るために、2007年1月に「九谷焼」の地域団体商標を取得しました。さらに2009年には、取得した商標をさらに効果的に活用していくために金・銀2種類の「商標

シール」を制定。これは同連合会傘下の組合員のみで使用が許されるもので、金シールは「製品の素地が石川県内で生産されたもの」、銀シールは「製品の素地が石川県以外で日本国内産のもの」に貼ることができます。これにより他産地で作られた製品との明確な差別化を図ることができ、流通業者や一般消費者も正規品と模倣品を簡単に見分けられるようになりました。また、商標

地域ブランド 10の成功物語 | 模倣品対策事例



【権利者】石川県九谷陶磁器商工業協同組合連合会
【住所】石川県能美市寺井町よ25番地
【地域団体商標】九谷焼
【商標登録】第5027414号

石川県九谷陶磁器
商工業協同組合
連合会
ホームページへ



取得・活用とあわせて、各地で展示会を行うたびに来場者に正しい知識を持ってもらえるよう九谷焼の特徴を説明するなど地道なPR活動も実施。こうした取り組みが功を奏して、「九谷焼」の正しい認識が広まり、現在「九谷焼」の模倣品は大幅に減少しています。



商標でブランドを守り、
未来へチャレンジする
体制を強化する

「九谷焼」に対して「高価なもので、普段の暮らしにはなかなか使えない」というイメージを持っている人は多くいます。しかし近年は、若手の

作家による新しい「九谷焼」が誕生。「九谷五彩」による華やかな色彩や、「花詰」「盛」と呼ばれる「九谷焼」ならではの画法を用いながらも毎日の暮らしに取り入れられる器や、ウルトラマンなどのキャラクターとコラボした作品も数多く登場。これまで「九谷焼」に興味関心のなかった消費者との接点となり、新たなファン層を生み出しています。石川県九谷陶磁器商工業協同組合連合会は、伝統を守るだけでなく時代に合わせて発展させていくことも大切と考え、こうした新しい「九谷焼」を作る若手作家を支援。地域団体商標を取得し、ブランドの「守り」を固めたことで、未来に対する「攻め」の取り組みにも積極的にチャレンジできる環境が強化されました。



この方々にお話を聞きました!
石川県九谷陶磁器商工業
協同組合連合会



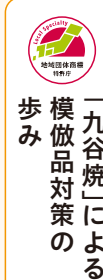
理事長
鎌木 基由氏

年々増加している訪日外国人。2020年はオリンピック開催でさらなる増加が見込まれます。まさに今、商標や特許について改めて勉強して、活用するべき時期だと思っています。地域団体商標は国が認めた証として外国人にもわかりやすくアピールすることができ、その効果に期待しています。



事務局長
山岸 政博氏

地域団体商標の取得は、模倣品対策として明らかに効果的でした。また、商標取得に伴って商標シールを開発した際には、「九谷焼」の定義を改めて考える良い機会になりました。商標取得によって「九谷焼」ブランドと組合員を守ると同時に、お客様が安心して購入できる仕組みが整えられたと思っています。



STEP 1

多くの模倣品が流通するなか「九谷焼」ブランドと作り手を守るために地域団体商標の取得を検討



STEP 2 2007年1月

「九谷焼」で地域団体商標を取得し、さらに金銀の「商標シール」を作成し模倣品対策を強化



STEP 3

商標を活用した取り組みによって模倣品が減少するとともに、ブランド価値が向上

